鶬

南飛、以度西北、

〔萬葉集二十〕久爾米具留、阿等利加麻氣利、由伎米具利、可比利久麻氐爾、已波比氐麻多禰、

右一首、刑部虫麻呂、○天平勝寶七歲所差駿河國防人

〔筆のすさび三〕一鳥の群　寛政八九年の頃なりしや、嵯峨野に蠟鵲鳥多く集り、木毎にむれゐること、一樹百二百羽にくだらず、山多く樹茂りたる處なれば、いづくを見ても、此鳥ならぬ所もなかりしかば、京より見に行く人多くて、茶酒の店などもこゝかしこに設くるほどの事なりしよし、六如上人より告知らせらる、其より四五年も後なりしや、吾郷備後神邊に、うそ鳥多く來り、予○菅茶山が庭の樹竹軒ちかき枝まで、この鳥ならぬ處もなかりし、かの蠟鵲鳥も、その年の前後に、常より多かりし事もなかりしとなり、予が郷里のうそ鳥も玄かり、山中雪ふりければ、鳥多く里に出るといへども、其歲わきて雪多くもあらざりし、さらば此鳥のみ多くもあらざるべきに、

〔本草和名十五獸禽〕鵯俾彌反　又有鶯音鼓歷反、貌似烏而色蒼白也、出崔禹、和名比衣止利、

〔倭名類聚抄十八羽族名〕鵯　崔禹錫食經云、鵯音卑、一音匹、和名比衣止里、貌似烏而色蒼白者也、爾雅集注云、鵯一名鶯音激一名鵯鵲、匹居二音一名鷽鵯、譽斯二音飛而多群、腹下白者、江東呼爲鵯烏、

〔箋注倭名類聚抄七鳥名〕按本草和名所擧鵯、卽鵯鵲、鵯鵲鶯二物不同、爾雅兼擧二鳥、下文詳引之、故輔仁云鵯俾彌反又有鶯、則鵯鶯非一物、蓋以鶯鵯相類並擧之、而和名則訓條首之鵯、不訓別種之鶯、輔仁書之通例也、故源君從之、訓鵯爲比衣止利、然云似烏而色蒼白者、是鶯之形狀、非鵯之形狀、此引之誤、又按鶯似烏蒼白色、依郭璞爾雅注也、下文詳引之、而其物則未詳、○中略按所引○爾雅注與郭注大同小異、蓋是舊注也、按釋鳥云、鶯鵲鵲、郭注云、似烏蒼白色、釋鳥又云、鷽斯鵯鵲、郭注云鵯烏也、小而多群、腹下白、江東亦呼爲鵯烏、是鶯與鵯鵲二物不同、此引云鶯一名鵯鵲者誤、舊注亦必不如此、疑鶯音激一名五字、似當作一名鶯音激、在上文貌似烏之上、蓋本草和名引食經兼載鵯鶯、源君